

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3137275号
(U3137275)

(45) 発行日 平成19年11月15日(2007.11.15)

(24) 登録日 平成19年10月24日(2007.10.24)

(51) Int. Cl. F I
B 6 5 D 1/26 (2006.01) B 6 5 D 1/26 Z
B 6 5 D 85/34 (2006.01) B 6 5 D 85/34 B

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2007-6976 (U2007-6976)
 (22) 出願日 平成19年9月7日(2007.9.7)

(73) 実用新案権者 000124166
 加茂 守
 大阪府池田市旭丘1丁目3番31号
 (74) 代理人 100114030
 弁理士 鹿島 義雄
 (74) 代理人 100127362
 弁理士 甲斐 寛人
 (72) 考案者 加茂 守
 大阪府池田市旭丘1丁目3番31号

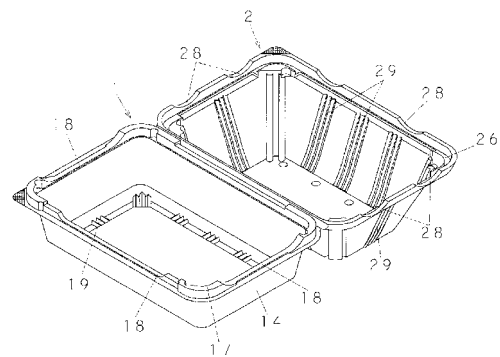
(54) 【考案の名称】 果実包装用容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 段ボール箱のようなマスターカートンに収容するのに無用な収容空間が形成されることなく、内包果実を確実に保護でき、安全に輸送できる構造とした容器の提供。

【解決手段】 容器本体1が、平面視横長の長方形状で、深さが浅めの深さ方向窄まりの形状とされ、蓋体2が、容器本体1と相似形の平面視横長の長方形状で、深さが容器本体1の深さよりも深くて深さ方向下窄まり形状とされ、凹入底と周壁部とが交わる角部25が大きな円弧状に形成され、これら両体1、2の開口端部分に外向きのフランジ部が形成され、これら両体1、2の何れか一方の開口端部分四隅部分に位置決め嵌合凹部が形成され、何れか他方の開口端部分に位置決め嵌合凹部と、外周面が密接状態で相対嵌合する位置決め嵌合凸部17が形成され、これらが互いに嵌合して閉蓋姿勢を維持できる構造としたもの。

【選択図】 図5



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

透明な合成樹脂シート素材を用いて容器本体(1)とその上部を覆う蓋体(2)とを一側でヒンジ部(3)を介して折り畳み自在に一体的に形成されている容器であって、容器本体(1)が、平面視横長の長方形状で、深さが浅めの深さ方向窄まりの形状とされ、蓋体(2)が、該容器本体(1)と相似形の平面視横長の長方形状で、深さが容器本体(1)の深さよりも深くて深さ方向下窄まり形状とされ、凹入底(23)と周壁部(24)とが交わる角部(25)が大きな円弧状に形成され、これら両体(1, 2)の開口端(11, 21)部分に外向きのフランジ部(12, 22)が形成され、これら両体(1, 2)の何れか一方の開口端(11, 21)部分の遊端側の両隅部分(a, a)若しくは四隅部分(a, a, b, b)に位置決め嵌合凹部(16, 26)が形成され、何れか他方の開口端(21, 11)部分の遊端側の両隅部分(a, a)若しくは四隅部分(a, a, b, b)に前記位置決め嵌合凹部(16, 26)と、外周面が密接状態で相対嵌合する位置決め嵌合凸部(22, 12)が形成され、閉蓋時に、これらの嵌合凹部(16, 26)と嵌合凸部(17, 27)とが互いに嵌合して閉蓋姿勢を維持できるように形成してある果実包装用容器。

【請求項 2】

容器本体(1)と蓋体(2)との開口端(11, 21)部分に外向きに形成してあるフランジ部(12, 22)の少なくとも片方が、開口状態での水平姿勢において下方に凹入する凹入部(18, 28)を備えていて、閉蓋姿勢において相対向するフランジ部(12, 22)間に容器の内外に通じる空気流通孔(c)が形成される構造とされている請求項 1 に記載の果実包装用容器。

【請求項 3】

蓋体(2)が、四周の周壁部(24)に、開口端(21)部分から凹入底(23)に至る複数本一組とした補強リブ(29)を備えた構造とされている請求項 1 または 2 に記載の果実包装用容器。

【請求項 4】

蓋体(2)が、周壁部(24)の四隅部分に、開口端(21)部分から凹入底(23)に至る複数本一組とした補強リブ(29)を備えた構造とされている請求項 1 乃至 3 の何れかに記載の果実包装用容器。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、容器本体と蓋体とをその一側部でヒンジ部を介して折り曲げ折重ね自在に一体的に連結形成してある樹脂シート製の果実包装用の容器であって、殊に、大形マンゴーのような大形で高価な果実を 1 個単体で包装するのに適した容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来からパイヤやマンゴーのような大形の果実を 1 個だけ個別包装したり、2, 3 個包装するための包装用容器は、下記特許文献 1 に示されていて公知となっている。また、桃、ナシ、メロン、リンゴ等の果実類を複数個包装する包装用容器も、下記特許文献 2 に記載されていて公知になっている。

【0003】

これらの内、前者の容器は、前記パイヤやマンゴー等の果物が載置収容される凹所をもつ上部開放型の底部側容器片 1 と、収容果物に被さるように凹所が形成されている蓋部側容器片 2 とを、互いの開口部で嵌合するように形成した容器が示されている。しかしながら、ここに記載の容器は、当該特許文献 1 の図面にみられるように、蓋が傾斜していて、段ボール箱のようなマスターカートンに収容するのに収容効率が悪いという課題を有している。

【0004】

また、後者の特許文献 2 に記載の桃、ナシ、メロン、リンゴ等の果実類を複数個包装する容器は、収容する果実の姿勢を安定させるために、容器本体の底部形状を、果実の下部

10

20

30

40

50

形状に合わせた複数の収納凹部を形成してある形状としてある。この容器は、果実収納凹部を複数個形成してあるため載置姿勢が安定するが、１個だけ個別に包装する形態とした場合には安定性を損ねる形態となっている。

【特許文献１】特開平８－１１９３５６号公報

【特許文献２】特開平１１－４３１８６号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００５】

そこで、本考案は、このような従来の果実容器が有していた課題を解決するために、容器に工夫を加え、使用し易く、段ボール箱のようなマスターカートンに収容するのに無用な収容空間が形成されることなく、内包果実を確実に保護でき、安全に輸送できる構造とした容器をここに提案しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

該目的を達成するために講じた本考案の請求項１に記載の果実包装用容器の構成を説明すると、透明な合成樹脂シート素材を用いて容器本体１とその上部を覆う蓋体２とを一側でヒンジ部３を介して折り畳み自在に一体的に形成されている容器であって、容器本体１が、平面視横長の長方形状で、深さが浅めの深さ方向窄まりの形状とされ、蓋体２が、該容器本体１と相似形の平面視横長の長方形状で、深さが容器本体１の深さよりも深くて深さ方向下窄まり形状とされ、凹入底２３と周壁部２４とが交わる角部２５が大きな円弧状に形成され、これら両体１，２の開口端１１，２１部分に外向きのフランジ部１２，２２が形成され、これら両体１，２の何れか一方の開口端１１，２１部分の遊端側の両隅部分a，a若しくは四隅部分a，a，b，bに位置決め嵌合凹部１６，２６が形成され、何れか他方の開口端２１，１１部分の遊端側の両隅部分a，a若しくは四隅部分a，a，b，bに前記位置決め嵌合凹部１６，２６と、外周面が密接状態で相対嵌合する位置決め嵌合凸部１７，２７が形成され、閉蓋時に、これらの嵌合凹部１６，２６と嵌合凸部１７，２７とが互いに嵌合して閉蓋姿勢を維持できるように形成してある構造としたものである。

【考案の効果】

【０００７】

本考案にいうところの果実包装用容器は、このような構造としたものであるから、高級な大形の果実を損傷させることなく個別に保護して確実に市場に提供できるという優れた効果が期待できるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００８】

上記のような構成とした本考案の果実包装用容器を実施するに当たっては、前記請求項２に記載したように、容器本体１と蓋体２との開口端１１，２１部分に外向きに形成してあるフランジ部１２，２２の少なくとも片方が、開口状態での水平姿勢において下方に凹入する凹入部１８，２８を備えていて、閉蓋姿勢において相対向するフランジ部１２，２２間に容器の内外に通じる空気流通孔cが形成されている容器として実施することができる。また、前記請求項３に記載したように、蓋体２が、四周の周壁部２４に、開口端２１部分から凹入底２３に至る複数本一組とした補強リブ２９を備えた構造として実施することができ、更には、前記請求項４に記載したように、蓋体２が、周壁部２４の四隅部分に、開口端２１部分から凹入底２３に至る複数本一組とした補強リブ２９を備えた構造として実施することができるものである。

【実施例】

【０００９】

以下本考案の実施例について図面に基づいて説明する。図面中、図１乃至図７は、本考案の主たる実施例としての第１実施例を示した図であって、図１は開蓋状態を示した平面図、図２は図１の右側から見た側面図、図３は容器本体の正面図、図４は蓋体の背面図、図５は開蓋状態の斜視図、図６は使用状態を示す閉蓋状態の正面図、図７は同図の右側面

図である。

【0010】

該実施例に示した果実包装用容器は、透明な合成樹脂シート素材を用いて図1の下部に示した容器本体1と、閉蓋時にその上部を覆う図1の上部に示した蓋体2とを、図1の上下方向の中間部に示したヒンジ部3を介して折り畳み自在に一体的に形成してある容器である。

【0011】

而して、容器本体1は、平面視横長の長方形状で、蓋体2に比べて深さが浅めで周壁部14を深さ方向窄まりの形状としてあり、底部分13の周囲にだけその四隅と直線辺部分とに補強リブ19を形成してある。蓋体2は、該容器本体1と相似形の平面視横長の長方形状で、容器本体1の深さよりも深さが1.5倍程度深くて、周壁部24を深さ方向下窄まりとなる形状としてあり、凹入底23と周壁部24とが交わる角部25を図2及び図3のように、大きな円弧状を呈するように形成してあり、該蓋体2にも、四周の周壁部24に、開口端21部分から凹入底23に至るまで連続する3本一組とした補強リブ29と、四隅部分にも、開口端21部分から凹入底23に至る2本一組とした補強リブ29を形成してある。

【0012】

また、これらの容器本体1と蓋体2との開口端11, 21部分には、外向きに形成してあるフランジ部12, 22を形成してあり、これらのフランジ部12, 22を、図1乃至図3にみられるように、開口状態での水平姿勢において下方に凹入する凹入部18, 28を備えている形状としてあり、図6及び図7に示したように、閉蓋姿勢において相対向するフランジ部12, 22間に容器の内外に通じる空気流通孔cが形成されるようにしてある。また、該実施例に示した容器は、図1にみられるように、蓋体2における凹入底23の天板にも空気流通用の複数個の小孔hを形成してある。

【0013】

更に、これら両体1, 2には、遊端側の両隅部分a, aとヒンジ部3側の両隅部分b, bとを含めた開口端11, 21部分の全周面に連続する位置決め嵌合凹部26が蓋体2側に形成され、容器本体1には、この嵌合凹部26を外周面が密接する状態で相対嵌合する位置決め嵌合凸部17を形成した構造としてある。前記凹入部18は、この嵌合凸部17を部分的に低くすることによって形成してある。

【0014】

本考案にいうところの容器は、その大きさを特定したもののみに限定するものではないが、該実施例の図6及び図7に例示したように、1個のマンゴーMだけを包装するための容器とした場合の各部の概略の大きさを示すと次のようになる。図1の平面図における容器本体1の横幅=190mm, 同上下長さ130mm, 図2の側面図における容器本体1の高さ40mm, 蓋体の高さ60mmである。この数値はあくまで外寸であり、果実の大きさに合わせた別寸法の容器の製造を否定するものではない。

【0015】

図8乃至図11は、本考案の第2実施例を示した図であって、図8は開蓋状態を示した平面図、図9は図8の右側から見た側面図、図10は蓋体の背面図、図11は開蓋状態を示した斜視図である。

【0016】

該第2実施例に示した容器は、容器本体1の形状は、前記第1実施例に示した容器本体1と同様のものとし、蓋体2の形状を前記第1実施例に示した容器の蓋体2に比して、主として図8に明らかなように、横方向と上下方向との周壁部24に形成した補強リブ29の数を大幅に多くして、強度を高めてある構造としたものである。より詳しくは、3本一組のリブと、2本一組のリブとを交互に配した構造として、外圧に対する強度をより一層増加させたものである。その他の点については前記第1実施例のものとほぼ同じ構造としてある。

【0017】

10

20

30

40

50

図 1 2 乃至図 1 5 は、本考案の第 3 実施例を示した図であって、図 1 2 は開蓋状態を示した平面図、図 1 3 は図 1 2 の右側から見た側面図、図 1 4 は蓋体の背面図、図 1 5 は開蓋状態を示した斜視図である。

【0018】

該第 3 実施例に示した容器は、容器本体 1 の形状は、前記第 1 実施例に示した容器本体 1 と同様のものとし、蓋体 2 の形状を前記第 1 実施例に示した容器の蓋体 2 に比して、図 1 2 から明らかなように、横方向と上下方向との周壁部 2 4 に形成した補強リブ 2 9 を全部除去し、四隅部分に形成してある 2 本一組とした補強リブ 2 9 のみを残した構造としたものである。このようにして、内部に収容した果実の状態を外部から透視確認し易いものとしたものである。その他の点については前記第 1 実施例のものとほぼ同じ構造としてある。

【0019】

図 1 6 乃至図 1 9 は、本考案の第 4 実施例を示した図であって、図 1 6 は開蓋状態を示した平面図、図 1 7 は図 1 6 の右側から見た側面図、図 1 8 は蓋体の背面図、図 1 9 は開蓋状態を示した斜視図である。

【0020】

該第 3 実施例に示した容器は、容器本体 1 の形状については、前記第 1 実施例に示した容器本体 1 と同様のものとし、蓋体 2 の形状を前記第 1 実施例に示した容器の蓋体 2 に比して、図 1 6 から明らかなように、横方向と上下方向との周壁部 2 4 に形成した補強リブ 2 9 を全部除去するとともに、四隅部分に形成してある 2 本一組とした補強リブ 2 9 についてもこれを除去し、周壁部 2 4 に補強リブが形成されていない構造として、内部収容の果実をより一層透視し易いものとしたものである。その他の点については前記第 1 実施例のものとほぼ同じ構造としてある。

【0021】

以上本考案の代表的と思われる実施例について説明したが、本考案は必ずしも実施例として示した構造のものに限定されるものではなく、本考案にいう前記の構成要件を充足し、上記の目的を達成し、上記の効果を有する範囲内において適宜改変して実施することができるものである。

【産業上の利用可能性】

【0022】

本考案にいう果実包装用容器は、高級な大型の果実を損傷させることなく確実に保護し得る容器として市場に提供できるので、市場においては大いに歓迎され、果実生産農家において大いに使用されるものと思われる。

【図面の簡単な説明】

【0023】

【図 1】第 1 実施例の容器の開蓋状態を示した平面図。

【図 2】図 1 の右側から見た側面図。

【図 3】容器本体の正面図。

【図 4】蓋体の背面図。

【図 5】開蓋状態の斜視図。

【図 6】使用状態を示す閉蓋状態の斜視図。

【図 7】同右側側面図。

【図 8】第 2 実施例の容器の開蓋状態を示した平面図。

【図 9】図 8 の右側から見た側面図。

【図 10】蓋体の背面図。

【図 11】開蓋状態を示した斜視図。

【図 12】第 3 実施例の容器の開蓋状態を示した平面図。

【図 13】図 1 2 の右側から見た側面図。

【図 14】蓋体の背面図。

【図 15】開蓋状態を示した斜視図。

【図 1 6】第 4 実施例の容器の開蓋状態を示した平面図。

【図 1 7】図 1 6 の右側から見た側面図。

【図 1 8】蓋体の背面図。

【図 1 9】開蓋状態を示した斜視図。

【符号の説明】

【0 0 2 4】

1 容器本体

2 蓋体

3 ヒンジ部

1 1 開口端

10

1 2 フランジ部

1 3 底部分

1 4 周壁部

1 6 嵌合凹部

1 7 嵌合凸部

1 8 凹入部

1 9 補強リブ

2 1 開口端

2 2 フランジ部

2 3 凹入底

20

2 4 周壁部

2 5 角部

2 6 嵌合凹部

2 7 嵌合凸部

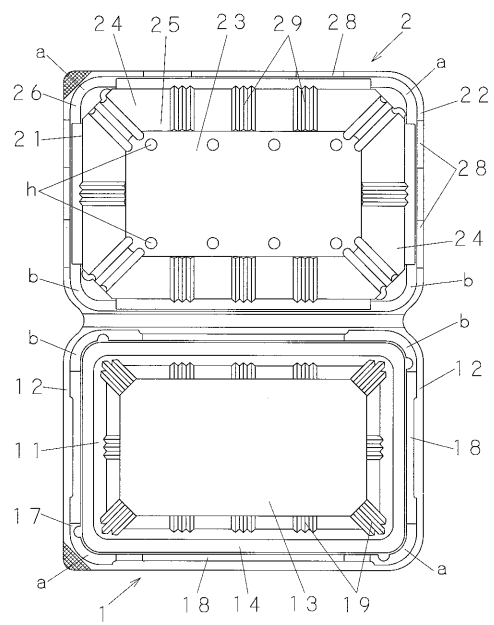
2 8 凹入部

2 9 補強リブ

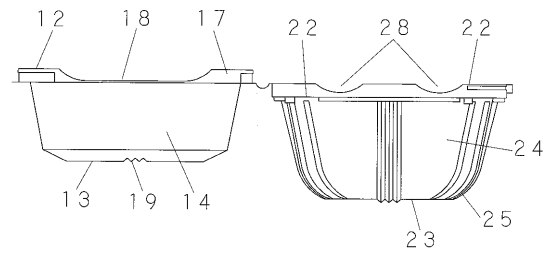
a 前隅部分

b 後隅部分

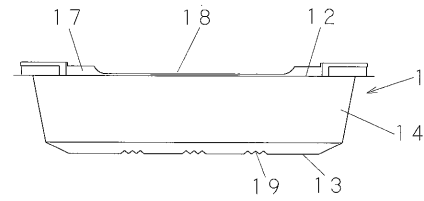
【 図 1 】



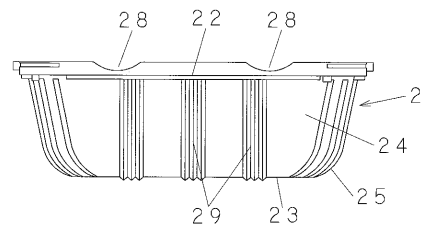
【図 2】



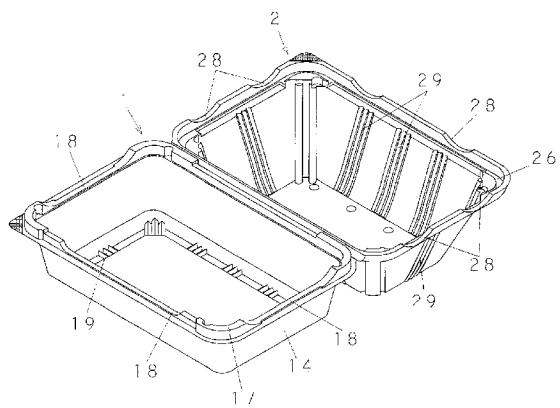
【图 3】



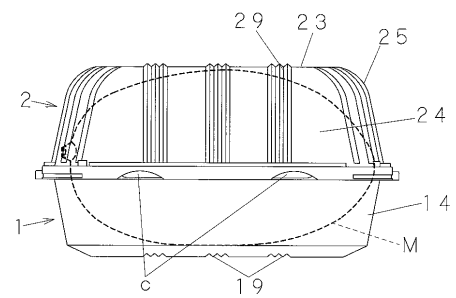
【图 4】



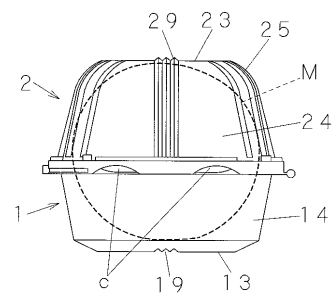
【図 5】



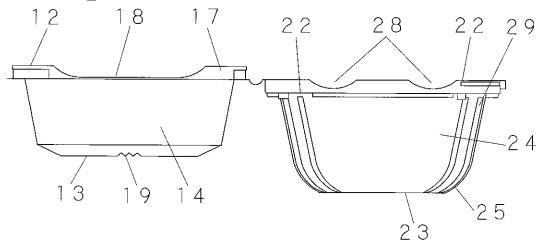
【图 6】



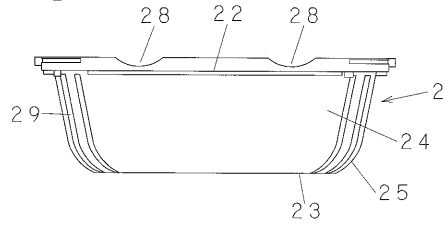
【图 7】



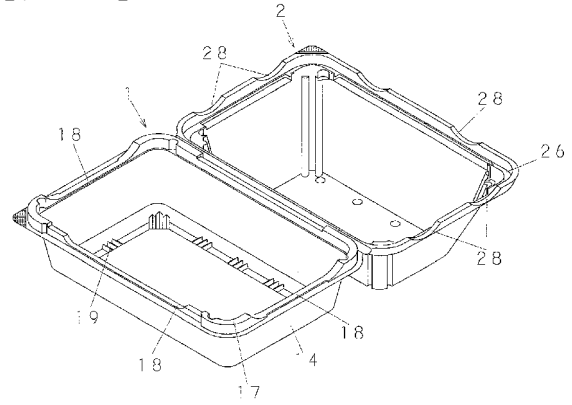
【図 13】



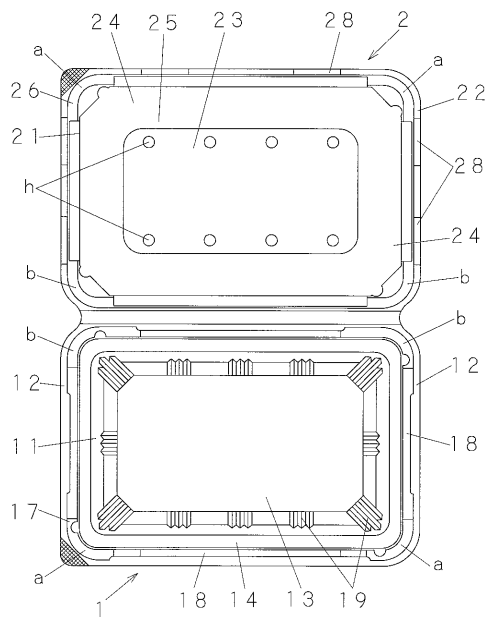
【図 14】



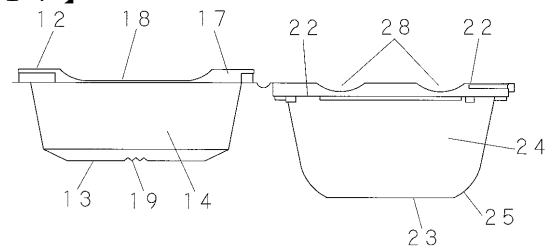
【図 15】



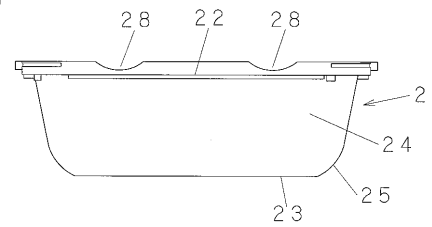
【図 16】



【図 17】



【図 18】



【図 19】

